

令和2年度「測量の日」における功労者感謝状の贈呈について

測量法が昭和24年6月3日に公布され、平成元年に満40年を迎えたことを機会に、測量の意義及び重要性に対する国民の理解と関心を一層高めることを目的として、6月3日を「測量の日」と制定しました。国土地理院では、「測量の日」を制定した平成元年以降、測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、「測量の日」の行事期間中に国土地理院長から感謝状を贈呈しています。

今年度は、以下の個人4名・2つの団体の方々に感謝状を贈呈します。

(五十音順 敬称略)

【個人】

◆^{いん ねん りん} 厳 網 林 (慶應義塾大学環境情報学部教授)

厳網林氏は、平成10年から令和元年までの長きにわたり、国土地理院研究評価委員会の委員を務められ、特別研究経費による課題、特に地図分野を対象とした外部評価を実施され、その結果は研究開発方針の見直しや研究開発資源の適切な配分等に反映された。

評価を実施した研究には、「地震時地盤災害推計システム(SGDAS)」や風水害時の浸水状況把握のリアルタイム化など、災害初動時の地理空間情報の提供に大きく貢献した。

◆^{うすい てるこ} 碓井 照子 (奈良大学名誉教授)

碓井照子氏は、平成18年度に測量行政懇談会を設置した当時から令和元年度までの長きにわたり委員を務められ、平成19年度から平成20年度まで測量行政懇談会測量行政基本政策部会の委員、平成21年度から平成25年度まで測量行政懇談会基本政策部会の委員、特に平成24、25年度は副部会長を務められるなど、測量行政の的確な推進に多大な貢献をした。

◆^{しかだ まさあき} 鹿田 正昭 (金沢工業大学教授)

鹿田正昭氏は、地域の産学官の間で地理空間情報に係る課題認識や情報共有を目的として平成22年度に設置した「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」で設置当初から座長を務めるなど連絡会議の運営に尽力され、(一社)日本写真測量学会理事、(公社)日本測量協会北陸支部長や測量行政懇談会委員などの役職も務め、測量行政の発展への功績は多大である。

また、地理空間情報に関する最新技術などを紹介する「空間情報セミナー」等を通じ、地域での地理空間情報の普及・活用促進に多大な貢献をした。

◆^{もりた たかし} 森田 喬 (法政大学名誉教授)

森田喬氏は、「新しい地図記号に関する検討委員会」(平成17年度)をはじめ、「電子国土基本図のあり方検討会」(平成23年度～平成25年度)、「外国人にわかりやすい地図表現検討会」(平成26年度)の委員長・座長を歴任、国土地理院に対して要請される新しい地図の姿を見通して、測量・地図行政の進むべき道をリードしてきた。

また、平成25年から現在まで日本地図学会会長として、会員以外の参加も可能な開かれた集会(地図に関する講演会や地方大会等)を企画し、地図の普及・啓発に努めた。

【 団 体 】

◆^{がっこうほうじん}学校法人 ^{きゅうしゅうそくりょうせんもんがっこう}九州測量専門学校 (理事長 ^{はやしだ たけし}林田 彪)

九州測量専門学校は、昭和 50 年に一等水準点「基 51」を、平成 8 年に電子基準点「熊本」を設置しており、測量の基準となる国家基準点の維持管理に継続して従事している。

さらに、平成 28 年熊本地震の影響で東海大学宇宙情報センター V L B I 局舎にあった基準重力点が使用できなくなったため、新たな候補地として同校から施設提供の協力があり、令和 2 年度には基準重力点も同校に設置することが予定されている。同校は、測量や観測に欠かせない測量標等の維持管理に多大な貢献をした。

◆^{こくりつだいがくほうじん}国立大学法人 ^{ひろしまだいがくきょういくがくぶしやかいけいこーすちりがくけんきゅうしつ}広島大学教育学部社会系コース地理学研究室 (代表者 ^{くまはら やすひろ}熊原 康博)

広島大学教育学部社会系コース地理学研究室は、過去の災害の記録を伝える石碑などを示す地図記号「自然災害伝承碑」誕生のきっかけとなった広島県坂町小屋浦地区の「水害碑」を含む広島県内の石碑について、その重要性にいち早く着目し県内 50 基の属性（建立年、碑の縦横比、使用している文字、碑文の内容、文字数）を調査し論文にまとめていた。

その資料は、令和元年に新たな地図記号として定められた「自然災害伝承碑」（令和元年 6 月 19 日から地理院地図で自然災害伝承碑の情報掲載）の公開において多大な貢献をした。